

第3回京都府スーパーサポートセンター公開講座 平成25年7月31日(水) 『明日からできる授業のユニバーサルデザイン化』 報告



実践報告 福知山市立雀部小学校 指導教諭 奥野 栄子氏
講 義 関西学院初等部教諭 授業のUD研究会関西支部
野村 真一氏

第3回の公開講座は上記のテーマで、まず福知山市立雀部小学校の奥野先生より実践報告をしていただきました。雀部小学校は、京都府総合教育センターにおける「平成23、24年度特別支援教育部研究プロジェクト 通常の学級におけるユニバーサルデザイン授業の研究」の指定を受けておられ、奥野先生には『チーム雀部』としての報告をしていただきました。次に、関西学院初等部の野村真一先生より、国語科における授業のユニバーサルデザインについて、具体的な授業実践をまじえた内容で講義をしていただきました。61名の方に御参加いただきました。

雀部小の実践報告より

- 雀部小学校のユニバーサルデザイン《授業編》
「できるだけ多くの児童が高い意欲を持って学ぶ、活躍できる、分かる授業」のスタイルとは、どのようなものかを『雀部小学校授業のスタンダード』として追及する。

A 授業の計画 B 教師の指示・発問・動きの視点
C 環境の視点

- 雀部小学校のユニバーサルデザイン
《学校生活編》

「どの子にも学びやすく、楽しく生活できる学校生活」のスタイルとは、どのようなものかを『雀部小学校生活のスタンダード』として追及する。

A 始業前の視点
B 休み時間・給食時間・掃除 時間・パワーアップタイムの視点
C 下校時あるいは下校後の視点

他にも、《教室環境編》、《校舎環境編》

- 授業スタイルの統一
めあての提示⇒第一発問⇒第二発問(主発問)⇒まとめ

研究の詳細については、京都府総合教育センターのホームページに掲載されています。

野村先生の講義より

「全ての子どもが安心して過ごせ、学習しやすくなるユニバーサルデザインの授業づくり」

- ユニバーサルデザインの解説
・焦点化、視覚化、共有化 について
(例)「目標の焦点化(国語科)」

焦点化するということは、「捨てる」ということ。1つの単元、教材の中で教えることをしぼる。そのためには、シラバスの全体像をとらえて、「どこで、何を教えるか」を整理すること、教科としての指導内容のスパイラル構造を知っておくことが必要。

- 国語の解説
・授業展開の鉄則

国語の授業として何を教えるのか？文章の内容理解だけでなく、「国語としての論理的な読み方、セオリー」を教えることが大切。それが内容理解にも反映される。小学1年生からでも、論理的な読み方はできる。授業の最後のまとめ・振り返りは、国語として教えた内容をまとめることが必要。

- 学級経営とUDの関係：三文スピーチ、クラス会議等

アンケートより

雀部小の先生からは、学校をあげてのUDの具体的な取組をお聞きすることができ、本校でも何かできることはないかとヒントをいただくことができたと感じています。(小学校)

みんながわかる授業。この子どもにどのような支援が必要なのかばかりに視点が行ってしまいました。子どもたちみんなが土俵に乗っていたのか。学びのレベルを下げる支援にならないことなど、ヒントをたくさんいただきました。「やらなければ」と強く思いました。ありがとうございました。(中学校)

焦点化＝捨てる、捨てる勇気と全体を見通すことが大切であると感じました。明日から使えるUDとして色々な方法や技法について学ぶことができた。早く新学期が来てほしいと思えました。(中学校)